

アトピー性皮膚炎の外用薬について

アトピー性皮膚炎における痒みや肌の炎症に対して各種ステロイド外用薬やプロトピック軟膏（一般名：タクロリムス）がこれまでに多く使用されてきました。

2020年にヤヌスキナーゼ(JAK)阻害薬である**コレクチム軟膏**（一般名：デルゴシチニブ）、2022年にホスホジエステラーゼ(PDE)IV阻害薬である**モイゼルト軟膏**（一般名：ジファミラスト）が上市され、近年になって従来のものとは異なる作用機序をもつ薬が登場してきました。

	小児適応	適用可能部位	主な副作用
ステロイド 	年齢、体重、塗布部位を考慮して投与量調節が必要	全身 (顔など吸収率が高い部位への使用は ランクミディウム以下 、塗布部位に注意が必要)	塗布部位の 皮膚線条多毛 感染症状 (毛包炎、にきびなど)
プロトピック 	0.03% 小児用 (2歳～15歳)	全身 (びらん、潰瘍面、粘膜面、にきびなどの感染部位を除く)	塗布部位の開始後1週間程度に一過性の 皮膚灼熱感 感染症状 (毛包炎、にきびなど)
コレクチム 	0.25% 小児適応 (生後6か月～16歳)	全身 (びらん、潰瘍面、粘膜面、にきびなどの感染部位を除く)	塗布部位の刺激感、皮膚紅斑 感染症状 (毛包炎、にきびなど)
モイゼルト 	0.3% 小児適応 (生後3か月～)	全身 (びらん、潰瘍面、粘膜面、にきびなどの感染部位を除く)	塗布部位の色素沈着、掻痒感 感染症状 (毛包炎、にきびなど)

患者様が副作用などで忌避されやすいステロイド外用薬ですが、これまでの使用実績を踏まえると適切に使用していただければ治療に大きく貢献することは間違いありません。一方で、ステロイド外用薬は顔に対して使用しにくいということも事実です。

この欠点を補う形でプロトピック軟膏を顔に用いる場合があります。しかしながら、使用してみると皮膚灼熱感を訴える患者様も少なくありません。

このような状況の中でコレクチム軟膏やモイゼルト軟膏のような新しい機序の外用薬が登場したことで、プロトピック軟膏が合わない患者様にも**新しい選択肢**が生まれました。

外用剤の種類が増えたことでそれぞれの欠点を補いながら、患者様に合わせた治療がしやすくなるのではないかと考えられます。

さいごに

外用薬は患者様が1回に使用する量を加減できるという側面がありますが、これは決して良い点というわけではありません。少ない量では十分な治療効果が見込めないことはもちろんですが、多すぎる量を使えば十分な効果の対価として副作用のリスクは上がります。

このような事態を避けるためにも、日ごろから使用している外用薬の分量が適切かどうか、私たち医療者が介入していく必要があると言えますね。